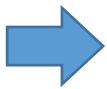


アンケート調査結果の要点

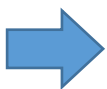
1 在宅生活の継続の状況

- ・在宅介護の希望者…約5割
- ・介護保険サービスを未利用の理由
…「介護をしてくれる家族がいること」が増加（前回調査比）
- ・在宅生活継続に必要な支援
…「介護をしてくれる家族がいること」が増加（前回調査比）
- ・在宅医療の利用意向…約6割
- ・人生会議の知名度…要介護者：4割強、一般高齢者：4割弱
理解度…ともに約1割
- ・「最期を迎えたい場所」…「自宅」：約5割、「病院・施設」：1割前後



在宅での家族介護の意向が増加
在宅生活を継続し最期も自宅で迎えたいと考えている人が多い

- ・在宅の要介護者の主な介護者…女性：7割弱、年齢：70歳以上が約4割
↑70歳以上の割合は、10ポイント以上増加（前回調査比）
- ・働いている介護者…約4割
- ・介護を理由とする離職者…1割強
- ・就労継続の可否…「（働きながらの介護を）続けていくのは難しい」：2割強



要介護者とともに介護者も高齢化している
家族の介護を抱えても働き続けられるよう、受け皿となる介護保険サービスの整備を一層進めていくことが必要

2 認知症施策の状況

- ・在宅の要介護者が抱えている傷病…「認知症」：約4割、「軽度認知症」：1割強
- ・施設等に入所したい理由…「認知症があるなどで24時間介護が必要」 } 約10ポイント
- ・主な介護者が現在行っている介護…「認知症状への対応」 } 以上増加
- ・認知症の相談窓口の知名度…3割弱
- ・市で実施している認知症施策の知名度
…「1つも知らない」：一般高齢者 約8割、要介護者の主な介護者 7割弱
〔「家族支援プログラム」、「認知症初期集中支援チーム」の知名度…1割未満
特に、単身世帯での知名度が低い〕



認知症への対応が近年大きな課題
認知症の早期発見と予防の考え方を含め広く周知・啓発することが必要

- ・認知症チェックリストの状況…12項目中3項目以上の該当者：3人に1人
↑年齢と比例して高く、男性より女性で高い



認知症の発症リスクの疑われる方に対して、適切な認知症施策に慎重につ
なげて支援する取組が必要

3 介護予防事業をとりまく状況

- ・「介護予防のための集いの場」や「津島市主催の行事（体操教室など）」への参加率
…いずれも1割未満。75歳以上の女性の参加率が高い
- ・市が開催する教室・講座の知名度
…プール・ヨガ・体操の教室：約3割、転倒予防教室：2割強、その他教室：約1割
参加意向：いずれも約1～2割
↑75歳以上の女性の参加意向が高く、65～84歳の男性で低い



男性及び65～74歳の女性に対する参加への呼びかけが必要

- ・一般高齢者が外出を控えている理由
…「トイレの心配」と「交通手段がない」：大きく増加（前回調査比）
- ・主要な移動手段…以下の割合が高い
 - 男性
65～84歳：自動車（自分で運転）
85歳以上：徒歩、タクシー、歩行器
 - 女性
65～74歳：自動車（自分で運転）
75～84歳：徒歩
85歳以上：自動車（同乗）、タクシー、歩行器
- ・主な移動手段を用いて行きにくい場
…①「病院・薬局等」 ②「日常的な買い物」 ③「地域の講座や教室」



高齢者の移動手段の確保は社会参加の状況に直結する重要な課題

- ・介護予防・日常生活支援総合事業における『卒業』の考え方
…理解している事業者：8割強、「不適切」と考えている事業者：4割強
〔理由：「卒業後のフォローアップの整備が不十分」
「卒業後、交流や外出がなくなり、状態の低下が不安」など〕

4 生きがいづくり・社会参加の状況

- ・毎日の生活
趣味関係グループへの参加率：約4割、スポーツ関係グループの参加率：約3割
⇔趣味を思いつかない人：3割弱、生きがいを思いつかない人：約4割
だらしなくなってきたと感じる人：約3割、日課をしなくなった人：約2割



元気に社会参加している高齢者が存在する一方、元気さを失いかけた生活を送っている高齢者も存在する

- ・地域での助け合い…心配事や愚痴を言い合える人：①配偶者 ②友人
⇔家族・友人以外の相談相手がない：5割弱
- ・友人と会う頻度が月1回未満の人…約3割



友人・知人と会う機会となる場を提供する取組が必要

5 人材確保の状況【事業者アンケート結果より】

- ・人材マネジメント上の問題：「介護職員等の確保、募集・採用」約8割
- ・人材育成上の問題：「部下を育成できる管理者・リーダーの不足」4割強
- ・職員確保の問題：「賃金など金銭的な処遇条件の改善の限界」5割強